



森市長を交えての研修

しました。全国に先駆けて高齢者福祉に取り組んだ市だけあって、介護保険法成立までに基盤整備、相談窓口整備、サポート態勢整備など自信满满なことばの隅々に、ハード・ソフト両面にあらゆる努力の跡を感じました。

戸田村では幼稚園の改築にあたり、少子化時代の到来と共に子どもや家族のニーズに応え、弾力的な運用と幼児教育環境の質的向上を目指して

夫と有効利用を目標に、村民の努力と力強い団結力は、国、県を大きく動かし、文部省・厚生省連名による施設共有化等に関する指針の下、同一敷地内に右側は保育園、左側は幼稚園とし、遊戯室・厨房・玄関は共有とし、子育て支援センターを保育園の

二階に設置した複合施設となっております。保育園・幼稚園のどちらに入れるかは親任せで、保育園は〇歳から五歳児が在園、保母・教諭はそれぞれ在職しているが、保育園・幼稚園の区別なく『へだっこセンター』

と称するこの施設でのびのびと生活していました。保育料は、保育時間数等で異なるが、親の理解のもと運営されてきました。こついつた合築施設は、確かに二十一世紀を先取りした施設と思われませんが、公営と私学の経営の一つを取って

も、子どもの立場で考えても難しい問題が残りそうだと思われました。今回の研修を終えて、子どもから高齢者までの総合福祉施策を一層強硬に充実させるためにも、今後、研鑽を重ねる必要があると考えさせられました。

市町村合併問題について

総務常任委員長 渡辺 公夫

【研修の目的】

地方分権に伴い、行政運営の効率化を図るためには市町村合併は、どうしても避けておれない問題と考え、平成十五年四月に合併をしようとしている福岡県宗像市と玄海町の、宗像市玄海町合併組合を、十一月十六日に視察した。

【宗像市・玄海町の概況】

宗像市 人口約八万五千人
福岡市のベットタウンとして急速に人口が増加。
玄海町 人口約一万人
主たる産業は漁業で、漁師町として今日に至る。

【合併協議会設立の経緯】

宗像市長が平成六年に合併の必要を表明した以降、宗像市民のみならず旧宗像郡の自治体への呼びかけを積極的に進めた経緯がある。その間行政及び議会において合併への研究がなされ、平成十二年二月に宗像市、玄海町の若手集団「宗像人の会」から、合併協議会設置の直接請求が提出され、それに伴い平成十二年四月に両議会において協議会の設置が議決された。

【御高町「可児地区」との類似性】
合併後の人口が同規模である。

地域としての歴史性に共通項が多い。
広域行政等の協力関係を持続してきた。

【まとめ】

合併問題が具体的な議論に発展すると、各種税、公共料金、都市計画等の調整が必要となるテーマが多くあり、総論賛成、各論反対となる場合が想定され、具体的な問題をどのように処理するかが今後の課題であるということであった。
研修を終えて、一般論として、行政、議会がどのように情報公開と説明責任を果たすかが重要ではないかと思つた。